0 総説

本書の見方 ……0－2
修理作業の説明範囲……0－2
説明内容の見方……0－2
用語の定義……0－3
点検整備時の注意……0－4
アクティブコントロールサスペンション……0－4
ダイアグノーシスコネクター……0－4
取り付け位置 ……0－4
コネクター端子配列……0－4

無断複製禁止

本書の見方

修理作業の説明範囲

修理作業は大別すると「診断」,「脱着，交換，分解・組み付けおよび点検・調整作業」および「完成検査」の３工程に区分することができます。本書は第２工程の「脱着，交換，分解・組み付けおよび点検・調整作業」について説明したものであり，第１工程の「診断」（本文中　電装品関係のトラブルシューティングは掲載してあります。）および第３工程の「完成検査」については説明が省略してあります。

説明内容の見方

1　注意事項

(1)　該当するセクション独自の注意事項について記載しました。

2　準備品

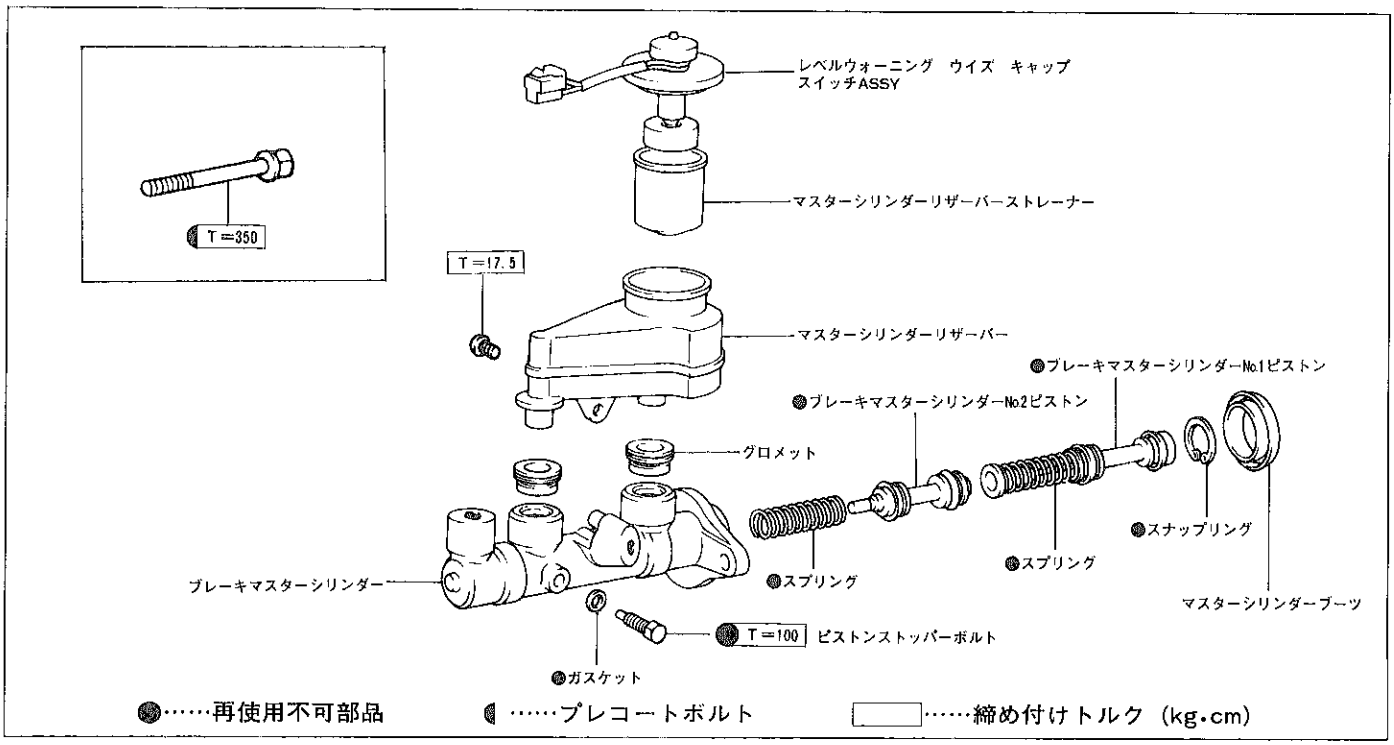
(1)　作業前に準備すべきSST，工具，計器および油脂などについて掲載し，あわせて各々の使用目的について説明してあります。ただし，準備品のうち，トヨタメカニックスタンド，ジャッキ，スタンドなど一般整備工場に常備されていると思われる準備品については掲載を省略してあります。

3　作業手順

(1)　各セクションのはじめに構成図，断面図を掲載し，構成部品の取り付け状態が把握できるようにしました。

(2)　構成図の中に再使用不可部品，プレコートボルト，締め付けトルクを明記しました。

記　載　例

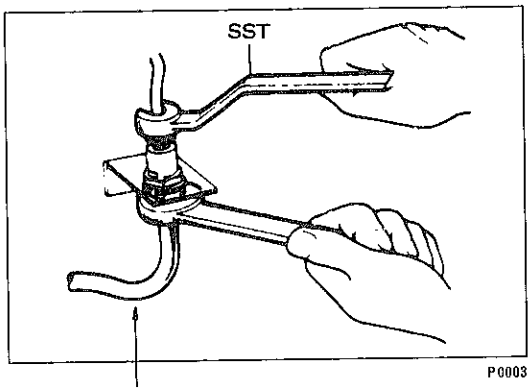


P0001　P0010

無断複製禁止

(3) イラストにて，作業部位および作業内容を掲載しました。

(4) 説明文では，細部にわたる作業方法，情報，規格および注意などを掲載しました。



イラスト：作業部位および作業内容

ホースとチューブの脱着　←小タイトル

1　ホースとチューブ接続　←作業項目

(1) ホースとチューブを手で仮付けする。

(2) ホース側をスパナで，チューブ側をSSTでそれぞれ固定してホースとチューブを締め付ける。

ＳＳＴ　09751-36011　←情報

Ｔ＝155kg･cm　←規格

説明文：細部にわたる作業方法

4　本書に省略されている内容

(1) 本書には次の要素作業の記載が省略してありますが実作業においては実施してください。

① ジャッキ作業およびリフト作業

② 必要に応じて行う取りはずし部品の清掃，洗浄

③ 目視による点検

用語の定義

基準値……点検，調整時の許容範囲を表す値をいいます。

限　度……点検，調整時に超えてはならない最高値または最低値を表す値をいいます。

参考値……基準値を知るための測定方法がいちじるしく困難なため実際上不具合発生のおそれのない場合の簡略測定法における基準値を表します。

注意……禁止作業など，行ってはいけないことについて掲載してあります。また作業要領で特に注意すべき事項を掲載してあります。

<参考>……作業を容易にするための補足説明を説明文から分離させて掲載してあります。

無断複製禁止

点検整備時の注意

アクティブコントロールサスペンション

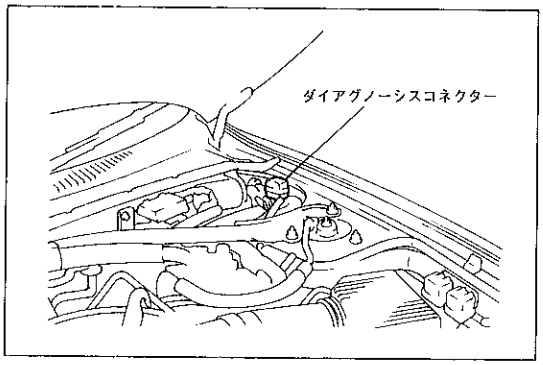
1 バッテリーターミナルやヒューズを取りはずす場合は，エンジン停止後30秒以上待ってから行なう。

2 ジャッキを掛けたり，ホイールハウス内へ手を入れる作業をする時は，エンジン停止後車高が変化することがあるため，30秒以上待ってから行なう。ジャッキアップ中はエンジンを始動しない。

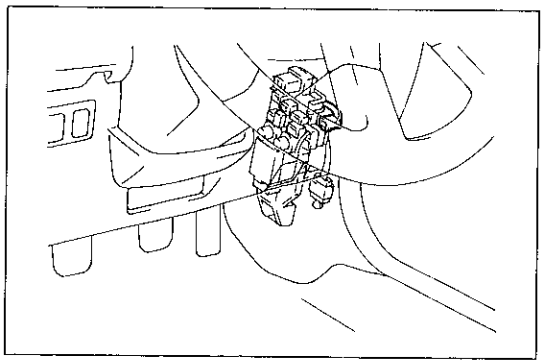
3 作動油は「トヨタアクティブサスペンションオイル」を使用する。また一度抜いたオイルや，異種オイルの混じったものは使用しない。

ダイアグノーシスコネクター

取り付け位置



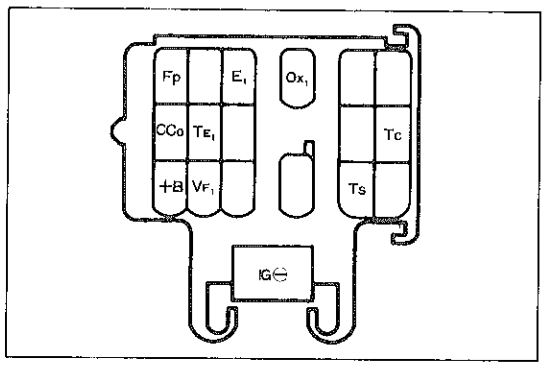
P0109


P0110

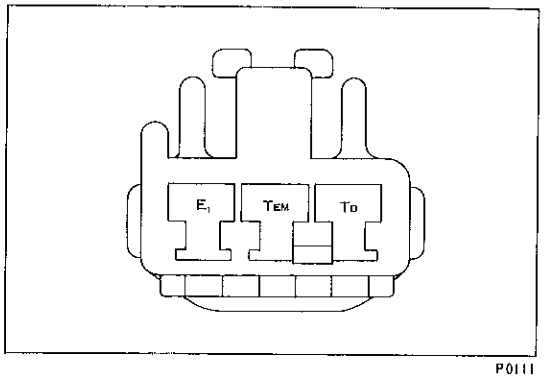
エンジンルーム左，タイヤエプロンの後側に設けられたステーに差し込まれています。

また運転席右カウルサイドのジャンクションブロック横に3極コネクター（T_D，T_{EM}　E_1）が取り付けてあります。

コネクター端子配列



P0418



P0111

コネクター端子の接続位置を間違えると，故障の原因になるため絶対に間違えないこと。

端　子	項　　目
F_P－＋B	フューエルポンプ短絡用
V_{F1}-E_1	空燃比補償装置点検用
CC_O-E_1	
O_{X1}-E_1	
IG⊖	エンジン回転数測定用
T_{E1}-E_1	TCCS，ECTダイアグノーシス用
T_S-E_1	アクティブサスペンションチェックモード用
T_C-E_1	ABS,4WS,A/D,アクティブサスペンションダイアグノーシス用 アクティブサスペンションチェックモード用
T_D-E_1	アクティブサスペンションチェックモード用

点検方法については，各セクションを参照すること。

無断複製禁止